

進行がん治療費、月50万円以上が6割…高額な新薬

先日、国立がん研究センターでの調査に基づいた驚くべき研究内容が発表されていました。ご紹介いたします。

調査には、がん治療にあたる延べ400以上の医療機関が参加し、肺や乳、肝臓、大腸など17種類のがんについて分析した結果です。最も病期が進んだ「ステージ4」などの患者で2021～22年に初回治療を受けた約1万6000人を対象に、1か月にかかった薬剤費と関連費用を調べたところ、その結果1か月あたりの治療費が「50万円以上」かかった患者の割合は59%に上っていました。患者の17%は何と「100万円以上」かかっていたのです。

例えば、肺がんでは、「進展型小細胞」と呼ばれるタイプで138万円かかったケースとか、乳がんでは、難治性の「トリプルネガティブ」というタイプでは118万円もかかっていました。ただし、患者さんの自己負担は、公的医療保険や高額療養費制度によって抑えられていますから実負担額はかなり低くなりますが、それにしてもやはり高額負担を強いられます。

近年、がん細胞を狙って攻撃する「分子標的薬」や、患者さんの免疫の攻撃力を高めるために「免疫チェックポイント阻害薬」が登場しています。

例えば、免疫チェックポイント阻害薬の「オプジーボ」と他の薬を組み合わせた胃がんの治療では、月77万円かかっていたという調査結果も出ていました。調査研究グループによると、治療費は従来の抗がん剤が主流だった15年前と比べ、10～50倍に膨らんでいると言っています。

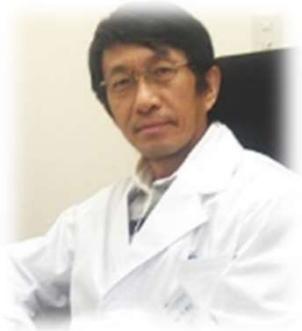
調査に参加した国立がん研究センター中央病院では「医師は、患者に最善の医療を提供するのが大前提だが、現在のように費用を意識せず、薬を使い続けるには限界がある。費用も踏まえ、どう治療を最適化すべきか、社会全体で考える時期に来ている」と指摘されています。私の解説としては、登録された患者さんの特徴として、難治性の高い膵臓がんや、まれな腫瘍である軟部組織、中枢神経系/脳の腫瘍などが多く含まれており、これは保険診療でのがん遺伝子パネル検査が、標準治療終了後(終了見込みを含む)の患者さん、標準治療の乏しい希少がんの患者さんに対して行われていることと合致しますので、多少一般的な費用負担のとの感覚的なズレがあると感じます。

皆さんは「がんゲノム医療」と言う言葉を耳にされたことがありますか？

これは、数十から数百個の遺伝子の変化を一度に調べることで、がん細胞におきている遺伝子の変化を調べる検査なのです。がん細胞の遺伝子の変化、つまり特徴を知ることによって、患者さんのがんに適した治療法を検討するのです。今では全国で280か所のがんゲノム医療病院で保険診療としてがん遺伝子パネル検査が受けられます。これがまさに「科学的根拠に基づいた医療」と言うことで略称EBM(Evidence Based Medicine)とも言われています。



クリニック名古屋ちくさヒルズ
林祐司 院長



財団榎原会 理事長
林 衆治 先生

次世代の「再生医療」 注目度が急激に高まる、 そのわけは？

今、You TubeやSNSなどで再生医療に関するセミナー動画や個々の医療機関による先生方の動画が多く配信されています。当クリニックでも同様にセミナー方式で再生医療を多角的にとらえて数多くの動画を配信させていただいております。今や多くの方がチャンネル登録を頂いておりますが、内容をよく理解するには「紙媒体」での情報が欲しいと言う声も多くあります。そんなご希望にもお応えすべく、今号をスタートとして、「再生医療とは？」「再生医療の種類は？」「再生医療で受けられる疾患は？」を中心に、シリーズでわかりやすく簡単に解説してまいります。毎月1日に発信をさせていただきますがお楽しみにしてください。

まずは今号では、「**幹細胞**」による**再生医療**についてお話いたします。

再生医療とは、簡単に申し上げますと、ご自分の神経や骨などを人工的に作り、組織や臓器を修復する治療法です。

幹細胞には、色々な細胞に分化(変化)する能力(性格)があります。トカゲのしっぽが切れても、後から新しいしっぽが生まれてくる、これが幹細胞による再生医療の原点です。

このように幹細胞は「ヒト」も同様に皮膚の中、脂肪の中、神経の中、骨の中、肝臓や他の臓器の中にも存在するものです。

もともとカラダには、損傷したり弱ってきた部分を修復しようとする働きが備わっています。指や手足などをけがして傷が出来ても、そこにかさぶたが出て治る、これは皮膚の中に幹細胞がある証拠です。また、骨を骨折しても3~4週間で新たな骨が生成される、これも骨の中に幹細胞が存在する証拠なのです。幹細胞を利用した再生医療は、この修復しようとする幹細胞の働きを何十、何百万倍にも増幅させて、ダメージを受けた血管や機能不全になった臓器に集中的に働きかけ、機能回復をすることで、本来カラダがもっている正常の機能に再び戻すこと(再生)を目的とした医療なのです。

つまり、運動や食事、静養などでは叶わなかったカラダの機能回復を自分の”細胞”の力で行う、それが「**自己脂肪由来幹細胞治療**」と言うことです。自己脂肪由来幹細胞治療は、この幹細胞を生体外で培養し一定の量まで増やしてから患者様本人のカラダに戻す方法です。これは、自分自身の幹細胞なので安全性も高くアレルギーや拒絶反応といった副作用がほとんどないのも大きな特徴(利点)で、今、最も注目されている最先端医療技術なのです。

治療に当たっての幹細胞は、骨髄、さい帯血、内臓臓器や脂肪などの中に存在していますが、一般的には身体への負担が少ないお腹の脂肪を採取して、それを基にして培養をします。それが新しい心臓、肝臓などの臓器や皮膚などの組織、関節や骨や軟骨や筋肉にもなり得るので

健康の知恵袋



聞くとところによると、脂肪組織を採る時には数mm程皮膚を切開し、幹細胞の投与においては外科的手術ではなく、点滴など体への負担が少ない方法で行われるそうよ。私のような高齢でもストレスなく治療を行うことができるそうです。

広報紙 「医療法人榎原会クリニック通信」
発行 医療法人財団榎原会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
〒464-0858 名古屋市千種区千種2-24-2
千種タワーヒルズ1F
ご意見はこちらまで info@clinic-chikusahills.com
編集・発行 医療法人財団榎原会 クリニック名古屋ちくさヒルズ
編集委員会(原稿責任者 川島和信)
発行日 毎月1日